

ICC Kyoto

Kyoto International Conference Center

秋

Autumn 2012

巻頭言 前ユネスコ事務局長 松浦 晃一郎 氏

自主企画シンポジウム

「若者よ、世界へ飛び出そう！」 - 山本 寛斎 氏

企画イベント / 催事一覧



巻頭言 世界遺産条約採択40周年記念最終会合

今年は世界遺産条約40周年の年にあたります。同条約の参加国は189カ国に及び、ユネスコが採択している諸条約の中で最も人気のある条約です。今年の1月から、多くの国において世界遺産条約40周年にちなんで色々な専門家会合が開かれ、世界遺産条約体制が抱える諸問題につき議論されてきています。そのような会合の締めくくりとして、11月6、7、8日の3日間に亘って世界遺産条約採択40周年記念最終会合が京都の国立京都国際会館で開かれます。イリーナ・ボコバ・ユネスコ事務局長が参加されるほか、世界各国から大勢の専門家が参加されます。

私は外務省時代及びユネスコ時代、国立京都国際会館で開かれた色々な国際会議に参加する機会がありました。その中でも私にとって一番思い出になっていますのは、1998年11月30日から12月5日にかけて開かれた第22回世界遺産委員会京都会議です。ホスト国が議長を出す慣例に従い、駐仏大使の任にあった私が議長を務めました。議長に駆り出されたのには政治的な背景がありました。というのはその2ヶ月前に日本政府により、私がユネスコの事務局長選挙に立候補する事が発表されていたからです。私はそれまで世界遺産条約にはまったく関係した

事がなかったので短期間の間に世界遺産条約について猛勉強しました。私が成功裏に議長職を務めれば、私の選挙運動に大きく貢献するでしょうが、逆に私が何らかのミスを犯せば足を引っ張られる事になるのは明らかでした（最終的には私を含めて11人の立候補がありました）。従ってかなりリスクの高いものを引き受けたと思った次第です。そのときの世界遺産委員会会合で取り上げた案件の中には、新たに世界遺産条約体制に参加してきた南アフリカが提案してきたロビン島（マンデラ大統領はじめ反アパルトヘイト指導者が長年投獄されていた所）の新規登録問題や、すでに世界遺産として登録されているがウラン鉱開発にからみ政治問題化しているオーストラリアのカカドゥ国立公園の取り扱いなど、微妙な問題がいくつもありました。

幸にして私の議長ぶりはメンバー国に高く評価されたようで、私の選挙運動にとっても大きなプラスになりました。そのように私にとって思い出の深い国立京都国際会館で、今回世界遺産条約採択40周年記念最終会合が開かれるのは感慨深いものがあります。

前ユネスコ事務局長 松浦 晃一郎

プロフィール - 松浦 晃一郎

リヨン第3大学名誉法学博士号、中国人民大学名誉教授、モスクワ大学名博士号、米国・ハヴァフォード大学名誉博士号、フィリピン・サントトマス大学名誉博士号、韓国・慶熙大学校名誉博士号以上を筆頭に50以上の名誉博士号を授与される。更に文化、科学、文明間の対話等の分野における国際協力の業績に鑑み、世界各国より70に上がる勲章、いくつもの名誉市民権等を授与される。

- （略歴） 山口県出身
- 1937年 生まれ
 - 59年 東京大学法学部中退 外務省入省
 - 61年 米国ハヴァフォード大学経済学部卒業、経済協力局長、北米局長、外務審議官（先進国サミットのシェルバ兼任）等を歴任
 - 94年 駐仏大使
 - 98年 世界遺産委員会議長
 - 99年 ユネスコ事務局長（第8代）就任
 - 2009年 同上 退任
 - 10年 公益財団法人 日仏会館理事長就任
 - 10年 明日の京都文化遺産プラットフォーム 会長
 - 11年 立命館大学 博士号（学術博士号）
 - 11年 株式会社パソナグループ社外役員就任



京都国際会館企画イベント

■ 乾杯の夕べ ～ ロシアへの想いを馳せて ～



2012年7月27日～28日



新生ロシア誕生より20年が経過した今、乾杯の夕べ2012～ロシアへの想いを馳せて～を開催しました。今年のテーマ国はロシア連邦です。会場では、館長木下博夫から主催者挨拶を申し上げ、在大阪ロシア連邦総領事ナイリ・M・ラチャーポフ氏、山田啓二京都府知事、門川大作京都市長から挨拶を頂戴しました。

広大な国ロシアを彷彿とさせるショーロ・カナリオのライブ演奏や、総領事館提供のボルシチ、ペルメーニ、ピロシキやお菓子の食の文化を堪能していただき、屋台料理やバザールでお楽しみ頂きました。豪華景品が当たる大抽選会で盛り上がり、最後は恒例の打ち上げ花火で夏の夜を締め括らせていただきました。

3,000人を超える皆様においでいただきましたこと、深く感謝申し上げます。誠に有難うございました。



2012年国際会館自主企画シンポジウム「若者よ、世界に飛び出そう！」第3回

財団法人 水と緑の惑星保全機構 理事長
(元参議院議員環境庁長官)

広中 和歌子 氏 講演会

2012年9月22日

国立京都国際会館では、世界で活躍する方々を招き、「若者よ、世界へ飛び出そう！」をテーマに、自主企画シンポジウムを開催しています。第3回は、元環境庁長官の広中和歌子氏を講師に迎え、日本がまだ敗戦というものを色濃く引きずっていた時代に米国留学された経験と見聞とを、世界の動きも交え「可能性発見の旅へ」と題してお話いただきました。第2部では、木下館長のコーディネートで、母に背を押され世界へ飛び出して40年のモンテ・カセム立命館副総長（国際・新戦略担当）と世界へ飛び出すことの魅力を対談されました。100人を超える聴衆を可能性発見の旅へ誘う秋の一日でした。詳細は次号（冬号）に掲載します。



2012.9.23 京都新聞 朝刊

平成24年度 宝松庵茶会

■ 第54回(平成24年秋) 宝松庵茶会

2012年11月23日



宝松庵茶会は、昭和59（1984）年春より始まり、以来年2回（春・秋）の恒例行事となり、今秋の第54回に至ります。洛北宝ヶ池のほとり、自然に恵まれた京都国際会館・宝松庵で、秋の清雅なひと時を皆様方にお楽しみいただければと考えております。

参加申し込み等、詳細につきましては、当館のホームページでご確認ください。

国立京都国際会館ホームページ <http://www.icckyo.or.jp/>

2012年国際会館自主企画シンポジウム「若者よ、世界に飛び出そう！」

山本 寛斎 氏 講演会

2012年5月26日 国際会館 Room D

〔山本 寛斎 氏 プロフィール〕

1944年生まれ。71年に日本人で初めてロンドンでファッションショーを開催。1974年から92年まで、パリ、ニューヨーク、東京コレクションに参加。
近年はファッション・デザイナーの枠を超え、プロデューサーとして、93年モスクワ、95年ベトナム、97年インド、01年山口きらら博、04年日本武道館「アポルダージュ」、07年東京ドーム「KANSAI SUPER SHOW 太陽の船」、09年インドネシア・バリ島「FESTIVAL OF LIFE〜いのちの祭〜」、昨年8月に三宅島帰島5周年の復興応援イベント「ハロー！三宅島」、11月に有明コロシアム「KANSAI SUPER SHOW 七人の侍」等を開催。
昨年8月から9月にかけて、東日本大震災鎮魂行事「天灯」をインドネシア・バリ島、ウクライナ・キエフ、福島県相馬市にて開催。7月から10月には長崎のハウステンボスにて、スペシャルウォーターアトラクションと衣裳展、「スーパー元気ステージ YAY!」の「日本元気祭り」を開催。
成田新高速鉄道の特急「京成スカイライナー」新型車両の内装・外装のデザイン（2010年度グッドデザイン賞、2011年度ブルーリボン賞受賞）を手がける。



（寛斎氏ホール後ろ扉から、中央通路を入場）

寛斎氏 / 今日のようなスタイルは、私の日常着で、分かりやすく言うと、他の方々と溶け合うという思想ではなく、他の方々を圧倒して目立つというものを着ております。こんなファッションの日々ですから、派手だと思われると同時に、若いですね、と言われますが、今、68 歳です。いったい、自分なりにいくつまで、頑張れるんだろうか、と考える時がありますが、80 歳を一つの目安にしております。一方で、今が、何歳で、だからどうこうとあまり思っておりません。そんな私にとって、旅をする、海外に出るということは、きわめて重要な私のエネルギーの源になっています。今日のタイトルが、「若者よ、世界へ飛び出そう！」というタイトルでしたが、旅が億劫だなと思われる方、手を挙げて頂き、その理由を教えてくださいますか？

参加者 A 氏 / 準備をするのが、手配するのが面倒臭くなるときがあります。

寛斎氏 / もうおひと方が手を挙げて下さっています。どうぞ。

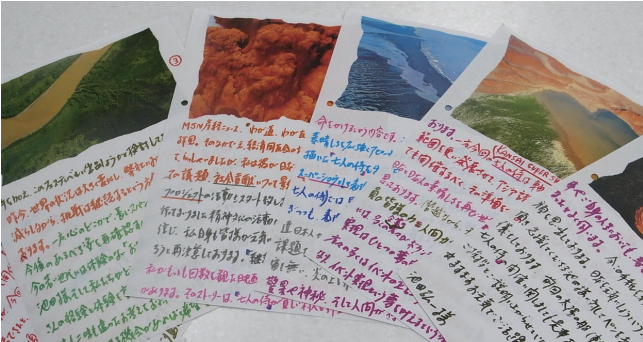
参加者 B 氏 / 日本にも、たくさんいいところがあるので、行ってみたいと思います。

寛斎氏 / 日本もいいところがたくさんあります。同様に、世界には、非常にいいところがいっぱいあります。そして、場所だけでなく、素晴らしい人々がたくさんいますので、是非、旅へ出られることをお勧めします。旅の渦中で、私は学ぶことがいっぱいあると思っています。お金が続く限り、旅は出ていたいなと思っています。言い方を変えれば、お金がなくなったら、何とか算段してでも、旅に出たいと思っています。私が皆さんにいつも訴えたいと思うことは、生きてくことで 1 番重要なことは何かということ、どうしたい、ああしたい、こうなりたい、という夢を持つということです。この夢をもつと、それを成し遂げるとき、素晴らしい充実した時が過ぎせると思います。確かに、夢を手に入れるとき、誰しもが簡単に手に入る訳ではありません。手に入れようとする苦労・情熱は、ふつうに手に入ると思ったら、大間違いです。それぞれ素晴らしい夢を手に入れようとする情熱的な方々にたくさんお会いしますが、その多くは、日本語というと、異常な水準になっていると思います。ですから、日本で生活していると、異常な人が少ないです。世界レベルでいうと、私の考え方がそうだろうと思いますが、とにかく、異常の人が多いいです。日本でいう、いい人、というのは、どうも世界に通じない。繰り返しになりますが、異常という言葉の選び方はちょっとおかしいかもしれませんが、とにかく、ふつうではいけないということです。どんな道でどういう夢を持とう

ともご自由だと思いますが、その夢を実現するためには、すさまじいエネルギーを持って、集中しないとそこには、到達できないと思います。結論からいうと、これはおかしいというくらい、エネルギーを投入すべきだと思います。その夢というのは、言い換えれば、好きなことをやるということです。とにかく、好きなことをやってほしい。ですから、好きな道を徹底して、好きに行くためには、いやなこともついでにやっつけねばなりません。1990 年代、ソビエトがロシアに代わるときですが、在ロシア日本大使館の文化参事官から、今、ロシアの社会情勢がとてもおもしろいから一度、見に行きたいませんか、とお誘いを頂きました。生まれて初めてロシアに入りました。感想をいいますと、やや現状の中国に似ていると思いますが、社会・国家のものの考え方と個人個人のものの考え方とは、別物だと思ったわけです。私は、ロシア人と対話してすぐに、彼らを好きになりました。その友情の証として、赤の広場でショーを行おうと思いました。それまで、私は、ファッションデザイナーとして、パリ、ニューヨーク、東京と年 2 回、コレクションを発表していました。赤の広場でのショーは、ファッションショーではなく、その後、スーパーショーと呼ばれることになりましたが、1993 年の開催を目標に準備に入りました。一晩でおおよそ 2 億円かかると予測しました。お集まりいただいたモスクワ市民の方々は、12 万人でした。このプロジェクトは、ゼロからのスタートです。どこかの国や企業などのように、予算が計上され、その上でスタートしたわけではありません。もちろん、赤の広場の使用許可もおりてはいません。何もないところから、入っていくというのが、どちらかというと、私式です。外国人が赤の広場を借りた例は、私が最初です。お金集めをどうするか、というのが大変で、日本には、優秀な広告代理店がいくつもありますので、そちらに資金集めをお願いしておりましたら、赤の広場の使用許可が下りたころ、皮肉なことに、「寛斎さん、どうも日本人は、ロシア人に対してよい感情を抱いていない。北方領土問題、戦後の抑留の問題、この 2 つが大きく日本国民の心理に影響しており、広告代理店としては、集金能力がない」ということで、困り果てました。でも一方で、赤の広場の使用許可までもらっちゃった。当然、本人は、かなりやる気になっているわけです。使うお金は 2 億円。どうやってこの資金 2 億円を集めようか。私は、経済人でも財界人でもありませんので、経営者に近づくためには、と戦略を練ったわけです。結論は、企業のトップに直接手紙を送ろうと思いました。私からの分厚い封書は、最初は、秘書課の若いお嬢さんのところに、外からの印刷物として届きます。そして、そのお嬢さんが社長にお届けする内容かどうかをまず選抜されます。

その封書をビリビリと破いて、中から出てきたものを見た瞬間にひゃーと声をだすかださないか、分かりませんが、心の中で大声が出るくらい、インパクトの強いものを送るなきゃいけないと思ったわけです。そこで使ったのが、普段ファッションのデザイン画を描くための、あの画用紙です。それに、京都の嵐山の特集みたいなきれいなページを雑誌から破き、画用紙の隅っこにに貼ります。こうしますと、世界中のどこにでもある画用紙が、世界に一枚しかない便箋に代わる訳です。職業柄、机の上には、たくさんの色ペンがのっていますので、写真の色とコーディネートして、写真に使われている絵から色を選別し、これらを左手の指に挟み、最初の一行、「はじめてお手紙を差し上げます・・・」色は赤。次には、「かくかくしかじかで、こんなことを考えております・・・」という文章がきれいなブルー。さらに文章は続きます、「是非一度お時間を頂きたい・・・」が紫。こんな風に画用紙一枚が虹の七色の文章で埋まるのです。この私の情熱がうまく秘書課の関門を通り、社長の目に触れたとき、紙面から、トリッキーな内容でなく、誠意のこもった、プラスのエネルギーが詰まっているかどうか。私の希望は、ものの売買ではなく、文化貢献、社会貢献、メセナといった分野の協力をお願いの手紙ですから、本当に気合いを入れて書かねばと思ったわけです。前の晩は、10 時には就寝し、翌朝、早起きをし、近所の公園で、運動をします。そして、朝ご飯を食べ、新聞 2 紙を用意して、トイレに入ります。トイレは、丸い腰かけ型です。こういう企業に送ろうか、といったときに、私の方法は新聞紙面から広告の面積の多いところに送ろう、と。また、こちらは、希望・お願いごとをするわけですから、こちらの希望ベースのことばかり書いて、相手が理解してくれるかどうかはわかりません。少しは、先方のお立場を考え、こちょこちょとくすぐらなければいけないとも思いました。もう一紙の経済新聞を読みますと、いつから新しい社長になって、前の社長は、祇園の接待がお好きでしたが、新社長は、畑仕事が好きで、、、と事情が書いてあります。うまくそうしたリーダーの特徴を取り込んで新社長の新しい生き方論は、後輩の一人として大変共鳴するものであります、という惹きつける文章もうまくいれようと心掛けました。20 年たった今も同様の手紙を書いておりますが、1 通書くのにおよそ 2 時間くらいです。午前中、太陽の光が差し込む部屋でさかんにペンを動かして、思いのたけを書きます。当時は、書いている内容が多かったので、1 通あたり、画用紙 8 枚とか 10 枚くらいの画用紙を使いました。最近は、5 ～ 6 枚で言いたいことが言えます。さて、10 通書き終わり、それを持って、私は自分の会社に出勤します。おおよそ昼ごろです。そして私の秘書君がそれぞれの会社へ送ってくれます。2 週間くらいしたころ、「会いましょう」とうまくいった場合、返事が来ます。お出した手紙を 10 通だとしますと、お会いして話を聞いていただける件数は、何件だと思えますか？ これは、私の質問です。

参加者 C 氏 / 3 通。



▲ 実際に送られた世界に一枚の手紙

寛斎氏 / 3 通が会ってくれた。もうちょっと結果は、良かったです。他の方いかが思われますか？ 半分？ 他に？ 10 通全部？ そんな甘いものじゃないですよ。結論から言うと、10 通お送りして、会って下さったのは 7 件。オーナー企業は、その場でポンとイエス・ノーを言われる場合もあります。が、大概是サラリーマン社長が多いわけですから、2 週間お待ちくださいというようなことで、最終的にお金が出るか出ないかは、お会いした件数のさらに半分まで減ります。10 件お送りして、お金が出るのが 3 件です。こうした行動をとる前に想像していた件数と、正解の件数のこの差が、実態はすごく厳しかったです。でも、10 件で 3 件の企業がお金を出してくれるとしましょう。そうしましたら、100 件送ったら、イエスが 30 件ですよ。ではさらに足して、3 分の 1 じゃショーできないじゃないですか。100 件送ったら、あと 200 件書いて 200 件送ってみましょう。そうすると、60 件がイエスとなります。こんなわけで、毎年、365 日、1 日 1 通、つまり 365 日毎日手紙を書けば、目標の金額に達するわけです。結論から言いますと、設定したときの自分の目標は、これくらいでこういう答えが出るのではないかと予測していたわけですが、現実には極めて厳しく、自分の読みがとても甘かったことに気づきました。ですが、何百件書こうとも、ゼロ円ではないわけです。こんなことで、1 年間、ずっと手紙を書いたということです。早寝早起きをし、運動をし、そして、毎日手紙を書く。これはいわゆる、癖の中に閉じ込められて規則正しい生活を要求されるのと、非常に似ています。

今、私は新しく書き終わった「上を向いて」というタイトルの本をみなさんにお見せしておりますが、私が何年に、いくつのショーをやったのかとチェックしてみたのですが、よくまあ、あっちこっちでこれだけのショーをやってきたと。私以外に誰かこんな行為をやっているか、と思い、自分の気持ちを量ってみました。私以外のどなたもいらっしゃいません。あの、モスクワの時から、すでに 20 年たちますが、その間に観客総数 20 万人のベトナム、観客 5 万人のインド、ニューデリー。様々な方々のアドバイスを受けながら、成立させてきたわけですが、よくもあれだけショーをやってきたと、我ながら驚きます。ひょっとしたら、私の人生は、ほとんど手紙書きばかりだった（笑）ということで、私が相当変わった人だということも分かってきました。今から、モスクワから始まり、今日に至るまでのスーパーショーのダイジェスト版を約 20 分でお見せしたいと思います。

（※モスクワから今日までのスペクタクルのダイジェスト版を上映）

寛斎氏 / ある雑誌のインタビューで、寛斎さんは何でこんなに、いろんなことをやってらっしゃるのですかと。一体何をやってらしたのですか？この情熱は、どこから来るのですか？という質問を先方がされました。私は、とっさにその質問を切り返して、一体何をやって来た人と見えるのでしょうかと聞いてみました。雑誌社の方が言うには、寛斎さんがやってきたことというのは、人が喜ぶ時間を作るということに、エネルギーを使ってらっしゃるとおっしゃいました。その通りで、毎回毎回、面白いことを実行することを一生懸命考えます。片方で、それが一体幾らかかるか、という予算のブレーキを掛けることのせめぎ合いになります。苦しみながら、やればやるほど中身も充実してくるという表しづらい世界を追いかけておりますので、人が喜びそうなものが、私にはどうもきれいに見えるということです。人の喜ぶことのための人生が、寛斎本人の喜びになるという図式の人生を歩んでいるようです。なぜ、ショーを続けるのか、最近やっとわかり始めましたが、まだ、

人がそこまで評価してくれてないからです。多分、寛斎がデザイナーでこんな大イベントをやっているということが知られていないとも思います。それらが、私の片方のハングリーな形にもなっています。同時に私がモチベーションを今だけに、保ち続けられるのは、「他人を喜ばせることを続けている寛斎は、偉大だ」ということを世界の方々に知ってもらうまで、続けねばならないと思っています。そして、こうした行動をする時、世界のレベルで言うと、狂ったような情熱・才能と出会います。それぞれに、まったく進む道が違いますが、その出会いはとても刺激的でもあります。一つ一つのイベントの完成まで、おおよそ、1～2年かかりますが、時として、何と自分の人生は駄目なのだろうということ、落ち込んだりもします。68歳になり、終点があと12年間しかないということになってきますと、じゃあ、今更、じたばたして方向を変えろということにするのも、得心が行きません。とにかくにも山本寛斎の世界というものを少しでも本人が完成した、という状況になるまで、追いかけていこうと思っています。本日、講演させて頂いている、京都の国立京都国際会館には21年前、一度参りました。当時、この会館は、(イベントホールが)満杯になったことがないということを知りましたので、私は、この会場をファッションショーの観客でパンパンに混ましてやろうと企て、関西の学校等に告知をして回り、超満員のなかでここで表現することが出来ました。21年前は、パリコレとニューヨークコレに没頭しておりまして、世界のデザイナーとしては、何人ぐらいの才能のなかに入っていたかどうか。50人か100人の1人だったのかも知れません。しかし、今、政府間交渉までやってお金集めも自分でし、こんな誰も見たことがないスーパーショーをやって、多くの人が喜んでくれるということ。これを生きていく限り、頑張りのつかえ棒にしてやっていこうと思っています。よく皆さんが、落ち込む時はないのですかと聞かれますが、落ち込んでいる時は一人でいる時です。みなさんが想像する以上に暗く落ち込んで元気を回復するのに、のたうちまわります。

それでは、改めて質問に行きましょうか？

参加者 D氏 /今日は、貴重な講演をしていただいて、ありがとうございました。大震災があった、解決策っていうのが、なかなか見つからないと言うか、見つからないものなのかも知れないんですが、デザイナーとかプロデューサーとかの職業の方たちが、どうアプローチしていくかと言うか、寛斎さんの考えられている考えと言うか、デザイナー、プロデューサー、そういうショーとかがですね、持つ力っていうのは、どういう力があるとお考えですか？

寛斎氏 / 難しい質問ですが、同時にすばらしい質問をしていただきました。私はこんな風に考えています。今年は、日中の国交 40 周年です。40 年前、私は、ちょうどあなたぐらいの年ごろ（質問者は、20 歳過ぎくらい）で、私のエネルギーはヨーロッパ、アメリカに向かって、日本人が持つ美学の力も、ヨーロッパの方と同等に優れていますよということを、証明する闘いの日々でした。勝負の土俵としては、パリコレと、ニューヨークコレをやらしていただいて、それから約 40 年の年月が経ちました。途中からは、いわゆる、コレクションという形をやめ、スーパーショーという形式に変化は致しました。しかし、大局的に世界を見ますと、ヨーロッパが、先頭を走っていた時代から、アジア、そして中国・日本を中心とするアジアの時代が、確実に迫っているという感じがいたします。こういう現象を感じ取った私は、北京と上海に体を置きますと、ひたすら興奮致します。東京をベースにして、会社を営んでおりますが、私個人は上海に住んで、東京にときどき戻ってやろう

かというぐらい、時代の変換を感じております。よく、歴史で、2 つ目の大きな転換期、西洋の時代と東洋の時代という、この両方に、私は架け橋のような存在と時代で居るように感じております。中国政府文化部のトップの方とお話しますと、これからは、経済中心ではなく、文化の交流を通じて、お互いを理解していききたい、という風にお話をもらいました。実際に、上海の高速道路を走りますと、走っている車はベンツやらアウディなどなど、日本の高速道路で走っている車より、はるかにグレードの高いヨーロッパのもの等がワンワンに走っています。高速道路の左右に見えるビル群のネオンやビル群を見てすごいなと思いますが、それらを見た後、成田に到着後、高速で都心に入ると参りますと、何て東京は静かなのだろう、何て人が少ないのだろうとも思ったりします。その逆が上海といえるかも知れません。つまり、彼らにとって、車と住むところは、だいたい手に入ったと。ところが男性、女性の個々の姿を見ておきますと、私の主観ですが、北京では特に顕著なのですが、女性の足のきれいさ。これは見事にきれいです。ほとんどがモデルになれるぐらい足がきれいです。一方、男性の髪型の主流は、角刈りです。女性のメイク、ヘアスタイルについても、今の日本は、中国の一步先を歩いているように思います。私たちが長い間、開拓し、勉強してきたものを、バトンのようにリレーすることは、これからもできましようし、あなたたちが、それを担うときが目の前に来ているように思います。先般、その日本に震災が起きました。いろいろよく見聞きしておりますと、こういう地震はいついつあった、100 年ぶりだとか何とかの地震ってということで、どこかで歴史の体験が私たちのなかにはあります。記録も残っています。が、放射能の一件は、私は初体験です。広島、長崎となりますと、私が 1 歳のときです。その後、ビキニと言うと、水爆の実験をアメリカが赤道直下あたりでやった実験ですが、当時は原爆の何千倍というような実験をどんどんやっていた。その死の灰をかぶった第五福竜丸の事件がありました。この時、私は 10 歳のときでした。そして今回、60 代で、初めて、放射能の問題を目の当たりにしたわけです。何が真相かを求めて、私がとった行動は、チェルノブイリを見に行くことでした。現在の原発の悪影響は、私たち日本人が感じているより、諸外国の人たちのほうが、悪く見ているように感じます。いづれにしても、この原発の問題は、きわめて大きな私達に課せられた課題のように思います。我々ができる範囲で、いろいろ世界へ向かって考えをお互いに交流させていくべきかなと思っています。

最後に、多くの人がなぜ海外にいかなくなったのか、という点について、インターネットの発達を挙げる人が多いのですが、テレビやインターネットの画面に映らないのは、におい、温度、そしてモスキート（蚊）です。私は、旅先に足を運ぶことで、感じるものがあると思います。人間の五感が感じることは、コンピューターが感じることより、ずいぶん優れているのだと思っています。【了】



▲ ご講演後の記念撮影(寛斎さんと館長)

開催されたイベント

比叡山宗教サミット25周年

2012年8月3日～4日



8月3日から4日にかけて、国内外の宗教者が集まり「世界宗教者平和の祈りの集い」が開催されました。今回は「自然災害の猛威と宗教者の役割」をテーマに仏教、キリスト教、イスラム教など13カ国から指導者が集まり意見を交わしました。3日は開会式典、哲学者・梅原猛さん(仙台市出身)の記念講演、そして「被災者に宗教者は如何に向き合ってきたか」をテーマにしたシンポジウムが開催されました。4日は「原発事故が提起したエネルギー問題と宗教者の立場」をテーマにしたフォーラム、そして午後からは場所を延暦寺に移して平和の祈り式典が開催され、自然災害や戦争の犠牲者を追悼し祈りをささげられました。閉会式では「原発を稼働し続けることは宗教的、倫理的に許されない。宗教者は強く警鐘を鳴らす責任があったことを率直に反省する。」とした比叡山メッセージを発表し、終了しました。

絆 Jamboree2012

2012年8月11日

「失われつつあるひととひととの繋がりを再生させることでコミュニティ内での絆を確認し、笑顔にあふれた明るい京都の未来づくりのために絆を深めよう」のテーマのもと、8月11日（土）に社団法人京都青年会議所による「絆 Jamboree2012」が開催されました。当日は家族同士の絆を深める為の催しが用意され、「京都両洋高等学校 吹奏楽部」のオープニングに始まり、アニメ「サザエさん」のマスオさん役でお馴染の声優、増岡弘氏の「きずな講演会」等で、参加者の皆様は楽しい一時を過ごされていました。夏休みのよい思い出になったのではないのでしょうか。

フィナーレは、～夜空に輝けコミュニティの絆～と題された花火大会で賑わいました。それぞれのコミュニティでの絆がより一層強くなったことでしょう。また、花火を見上げる皆様の目に、改めて強い絆を感じた催事でした。



開催予定イベント

世界遺産条約採択40周年記念最終会合

2012年11月6日～8日

世界遺産条約採択40周年記念最終会合（日本政府主催・ユネスコ協力）が、11月6日から8日まで開催されます。2012年は、ユネスコ世界遺産条約の採択後、40年を迎え、世界遺産を改めて振り返り、世界遺産条約の将来を考える節目の年として、1月30日のユネスコ本部（パリ）における開幕行事を皮切りに、世界各地で世界遺産条約採択40周年記念行事が行われています。これを受け、世界遺産「古都京都の文化財」の所在地である京都府と京都市、宇治市、大津市と経済団体も協力し、開催機運を盛り上げようと、古都京都の文化財の魅力を世界に発信する取り組みを実施します。当日の会合では、条約が果たしてきた役割や今後の世界遺産の在り方などを議論する見通しで、参加者は、国内の世界遺産等を視察される予定です。開催の詳細はホームページ（<http://www.finalevent.jp/>、http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/kyoryoku/kyoto_kaigo1211.html）からご覧いただけます。

第28回 京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ

2012年11月10日～12日

第28回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップが、2012年11月10日から12日まで開催されます。京都賞は科学や文明の発展、また人類の精神的深化・高揚の面で著しい貢献をした人々に贈られる国際賞で、その第28回受賞者が6月22日に決定しました。先端技術部門ではアイバン・エドワード・サザランド博士（アメリカ）、基礎科学部門では大隅良典博士（日本）、そして思想・芸術部門では、ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク教授（インド）が選ばれました。スピヴァク教授は、女性として5人目の受賞者となります。

6月22日の記者会見の様様や受賞者の詳細は、京都賞WEBサイト（<http://kyotoprize.org/>）からご覧いただけます。

会期	催事	参加者数
10月2日～3日	第43回日本看護学会 看護管理	2,300人
10月4日～6日	International Symposium on Pancreas Cancer 2012 in Kyoto	550人
10月7日～9日	第9回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）	900人
10月11日	平成24年度 京都府戦没者追悼式	2,000人
10月11日～12日	第57回日本聴覚医学会総会・学術講演会	900人
10月13日～14日	第65回済生会学会・平成24年度済生会総会	2,200人
10月16日	第14回商工会女性部全国大会 in 京都	2,300人
10月19日～21日	第74回日本血液学会学術集会	5,500人
10月25日～28日	第66回日本臨床眼科学会総会	6,000人
10月29日～11月1日	第8回SPIEアジア - パシフィックリモートセンシング会議	300人
11月1日	古典の日推進フォーラム2012	1,800人
11月3日～4日	第36回日本死の臨床研究会年次大会	3,000人
11月6日～8日	世界遺産条約採択40周年記念最終会合	600人
11月6日～9日	13th Biennial Conference of International Society for Fracture Repair : ISFR2012	500人
11月10日～12日	第28回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	3,000人
11月13日～15日	第40回日本救急医学会総会・学術集会	3,500人
11月16日	第50回近畿公立学校教頭会研修大会	2,000人
11月16日	第3回環境カウンセラー全国交流会	100人
11月17日	第49回日本糖尿病学会近畿地方	1,800人
11月18日～22日	第11回温室効果ガス制御技術国際会議	1,600人
11月23日	第54回（平成24年秋）宝松庵茶会	600人
11月23日～24日	第10回日本臨床医療福祉学会	1,500人
11月24日～27日	第9回国際糖尿病連合西太平洋地区会議・第4回アジア糖尿病学会学術集会	4,000人
11月29日～12月2日	第59回日本臨床検査医学会学術集会	2,000人
12月1日	スーパー・ビジネス・フォーラム	3,000人
12月4日～7日	第19回ディスプレイ国際ワークショップ/アジアディスプレイ2012	1,300人
12月8日	看護国際フォーラム2012「真のヒューマン・ケアリングの実現」	500人
12月9日	エキスパートナース・フォーラム2012	300人

編集後記

デザイナー、プロデューサーとして活動されておられる山本寛斎氏を迎え、自主企画シンポジウム「若者よ、世界へ飛び出そう！」を開催しました。視線と息遣いまでつぶさに伝わるような空間で、寛斎さんの人間賛歌、「ああしたい！こうしたい！」という夢を持って進むことの素晴らしさを、モスクワから始まり今日に至るまでのスーパーショーのダイジェスト版上映を交えながら、満喫させていただき感動の90分でした。秋号が出来上がりました。ご一読下さい。

（企画・広報課）

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
TEL 075-705-1234
FAX 075-705-1223
E-mail com@icckyo.or.jp
URL http://www.icckyo.or.jp/
発行日 2012年10月10日